

登録コード:MH285200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	一般検査学【22M以降】 Urinalysis		
担当教員	樋口 由美子 新井 慎平・松田 和之		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	検査技術科学専攻/2 学年 後期 火曜・1 時限		
単位数、講義室	1 単位	保健学科 2 1 1 講義室 保健学科分析系実習室 保健学科形態系実習室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	非該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH25カリ・保健・検査, MH23カリ・保健・検査		
	≪基礎的・専門的な知識と技能≫保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	⇔	一般検査に関連する検査法の利点、欠点を理解し、正確に実施できる。
	≪科学的探求力≫変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	一般検査に関連する検査結果について、その意義と病態解釈を説明できる。
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	尿の化学成分を半定量的に検査する方法と、尿中に出現する有形成分を形態学的に検査する方法について講義と実習を行います。また、便・髄液中の化学成分を半定量的に検査する方法と、便・髄液中に出現する有形成分を形態学的に検査する方法について講義と実習を行います。さらに各検査項目に異常をきたす病因と病態について講義を行います。 本授業は、1年次に学んだ「臨床検査総論Ⅰ」、「検査機器総論」の知識を前提として学んでいくことになります。そして、本授業の内容は4年次の臨地実習における重要な基礎知識となります。 本授業は担当教員の医療現場における臨床検査技師としての実務経験を活かして講義・実習を行います。		
授業計画	第1回 (9月29日) 尿定性検査法概論、尿蛋白検査 第2回 (10月6日) 尿糖、ケトン体、ビリルビン、ウロビリノゲン検査法 第3回 (10月13日) 先天性代謝異常症、Fishberg濃縮試験、PSP試験 第4回 (10月20日) 尿沈渣検査法総論 第5回 (10月27日) 尿沈渣検査法各論 第6回 (11月10日) 実習：尿定性検査1(比重、蛋白)、BJP検査 第7回 (11月17日) 実習：尿定性検査2(糖、ケトン体、ビリルビン、ウロビリノゲン、他) 第8回 (11月24日) 中間試験 第9回 (12月1日) 実習：尿沈渣検査1(採尿、赤血球・白血球の観察・算定) 第10回 (12月8日) 実習：尿沈渣検査2(赤血球・白血球の観察・算定、S染色・無染色の比較) 第11回 (12月15日) 実習：尿沈渣検査3(上皮細胞の観察・算定) 第12回 (12月22日) 実習：尿沈渣検査4(円柱、結晶、塩類、その他の観察・算定) 第13回 (1月5日) 実習：尿沈渣検査5(採尿、臨床検体の観察・算定) 第14回 (1月12日) 便の検査法、髄液・穿刺液等の検査法 第15回 (1月19日) 実習：便潜血反応、髄液細胞計測・分類 授業アンケートの実施 第16回 (1月26日) 期末試験		
授業の進め方	教科書、参考書、講義資料による講義と実習を行います。		
テキスト、教材、参考書	教科書：最新臨床検査学講座 一般検査学(三村邦裕 他編 医歯薬出版) 参考書：臨床検査法提要改訂35版(金井正光監修 金原出版) 参考書：尿沈渣検査法2010(日本臨床衛生検査技師会) 参考書：一般検査技術教本(丸善出版) 教材：講義資料		
成績評価の方法	中間試験・期末試験・レポートの結果に基づいて、総合的に判定します。 総合評価の配分は、中間試験(40%)・期末試験(50%)、レポート(10%)とし、総計の60%以上の得点を合格とします。中間試験は、第8回(11月24日)に、筆記試験として実施します。 レポートでは、各実習の方法と結果の記載内容及び考察について、中間試験や期末試験では、講義・実習に即し、尿化学成分の半定量的検査法の原理と問題点、尿中有形成分の特徴と臨床的意義、便潜血検査の原理と問題点、臨床的意義、髄液中有形成分の形態学的検査の臨床的意義、さらにそれぞれの検査法の実際についての理解度を確認します。		
成績評価の基準	成績評価の判定基準は、下記の通りとします。 90-100点：秀、80-89点：優、70-79点：良、60-69点：可 なお、これらの採点の基準は、行動目標に関連した設問に対する選択式解答の正誤だけで		

成績評価の基準	なく、記述式解答における用語に適切さ、説明内容の範囲の広さや詳細さ、記述内容の論理的な妥当性などを指標とし、授業で説明した範囲における、最低限の解答内容であれば「水準にある」、やや詳細な回答内容であれば「やや上にある」、十分に詳細な内容であれば「かなり上にある」、授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学修した詳細な解答がないようであれば「卓越している」と判定します。 レポートの評価は4段階で行う。実験結果に対する考察が十分にできていれば「卓越している」、ある程度できていれば「やや上にある」、実験結果がきちんとまとめられていれば「水準にある」、実験結果がきちんとまとめられていなければ「水準に足りない」と評価します。
事前事後学習の内容	【事前学習について】 事前に配布する講義資料、教科書に基づき予習と関連項目の復習をしてください。実習においては、実習内容を事前に確認、理解し、スムーズに実習に取り組めるように準備してください。 【事後学習について】 講義資料に基づきノートの整理をしながら復習し、理解不足のところは次回質問してください。実習においては結果を見やすく整理でき、他人に説明できるように考察をまとめ、レポートを作成してください。 本授業の単位修得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）＋ 自己学習時間15時間（1時間×15回）＝ 45時間 ＊以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	基本的に実習の欠席は認めませんが、やむを得ず欠席する場合には連絡をしてください。予習（事前学習）と復習（事後学習）に関する能動学習を通じて一般検査学の知識や技術を修得して、将来の臨床検査技師としての活動に役立てられるよう意欲的に取り組んでください。 個別の質問等は随時受け付けます。 質問への対応：新井慎平（arais@shinshu-u.ac.jp） オフィスアワー：随時 保健学科中校舎3階 検査助教研究室